

# (参 考)

## 総合計画審議会部会審議等における意見、提言の要旨

(平成21年 1月 第1回部会審議)

(平成21年 6月 第2回部会審議)

(平成21年10月 第3回部会審議)

(平成22年 1月 第4回部会審議)

(平成22年 5月 第5回部会審議)

( 産 業 部 会 )

山梨県総合計画審議会

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>1 「やまなしブランド」の確立と販路の拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ インターネットのマーケティングの分野から山梨を見ると、個々の農産物とか、林業とか、富士山とか、そういった個々の産業別の特徴は分かるが、それらの総和となる山梨ブランドというものが消費者として非常に自覚しづらいのではないかと思う。</li> <li>○ 各業種、職種共通して、県としてぜひ取り組んでもらいたいのが、誰が説明をしても分かるような山梨ブランドの定義をぜひ検討してほしい。</li> <li>○ 何が話題性があって、どのようにパブリシティーを行っていったらいいのかということについては、H19のブランド戦略の発表後、あまり具現化しているように見えないので、県内外の意見を取り入れて構築していくという、積極的な取り組みをぜひ考えてほしい。</li> <li>○ 「やまなしブランド」の捉え方については、ブランド戦略において、“ぶどうの粒のブランド化”⇔“ぶどうの房のブランド化”というキーワードがあったが、それは総体としては間違っていないが、山梨県での誇れる産業品、および重要な資産である景観とそれに付随するサービスを網羅する必要がある。</li> <li>○ 個別の製品・サービス開発に関しては企業努力に依るところが大きいですが、地域ブランド全体としたブランドアイデンティティについては、見た目のデザインだけでなく、「どのように知覚されうるブランドであるべきか」というブランドの位置づけを言葉として関係者すべてが共有できる状態にすべきである。</li> <li>○ ブランド戦略をデザインし推進するためには、強力で迅速に行動できるリーダーシップが必要とされるため、行政に対して求められるのは、地域ブランドとしての PR における、ブランド戦略のフレームをつくり、守る役割であり、個別企業に対しては、経済活動を阻害しない範囲で、「やまなしブランド」の骨子を理解させることが重要である。</li> <li>● フジザクラパークは、観光物産フェア香港へも出展しているが、現状はとても品薄の状態にあり、あまり販路を拡大しても、注文があった時に品物がない状況だと、ブランドのイメージが落ちてしまうのではないかと危惧する</li> <li>● ワインの原産地呼称制度について、既に長野県ではそういう制度が活用されていて、地域が中心になってワインをブランド化する活動をしており、山梨県でもそういう原産地呼称制度が必要。</li> <li>■ ブランドというのはある意味で、作るものではなく、できるものだと思うので、ブランドの PR キャンペーンを継続していかないと、せっかくの効果があったものが、ブランドに結び付かないので、今後は戦略的に継続してもらいたい。</li> <li>■ デザインの統一もブランドを確立するためには重要である。デザインがころころ変わると、それが例えば観光部のデザインと、観光推進機構のデザインで違ってしまっていると、せっかく積み重ねようとするものがばらばらになってしまい、イメージの中でブランドが積み重なっていかないので、そういった積み重ねを年齢層ごとに統一するとか、また社会的な階層によって統一するなどの必要がある。</li> <li>■ 例えばワインであれば、観光でブランドをやっているが、農政や商工にも係わるので、他の部との連携が必ず必要になる。そういったブランド、こういう戦略で県として進めていくのだということであれば、他の部でもしっかりとイメージを共有しないと、こういうイメージだと思って山梨に行ってみたら、全然違うものがありましたということになり、これでは山梨に来る人が多くなればなるほど、「二度と行くか」という人も増える可能性があると思うので、長期的、また戦略的に進めてほしい。</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>■ ブランドとか商品開発、マーケティングなどに携わっているが、そういった中では、来てもらう人に対して訴えかけることも大事だが、迎える側がどのような観光資源があって、なにを提供できるといった、山梨のブランドはこういうものであるということを知ることが県民一人一人が分からないと、ブランドは推進できにくいと考える。</p> <p>■ ブランドは一人一人の心の中に対しては自然と醸成されるものであるが、発信する側、県からすると、こういうブランド、例えばアラサー、アラフォーを狙ってビタミンやまなしをやりたいと意思を持った以上は、県が狙って発信するものになる。それが正しく狙った人に届いているだけではなく、山梨ブランドというものが相対的に形成されていくか、これから山梨が情報や資源を提供し続けることができるかということを知、今一度関係部署で連携を進めてもらいたい。</p> <p>☆ ブランド化ということが、単なる山梨の広報なのか、もしくは長い目を見たブランドなのかということが、県民の側からするとごちゃごちゃになっていて、同じようなものに見えてしまっていると私には見受けられる。</p> <p>☆ ブランド化に関して、外への広報とかプロモーションをしていることはよくわかったが、県民に対する理解を深める機会が見受けられない。このため、まず県内でもサポーターズクラブを設立したらどうか。</p> <p>☆ 山梨県の農産物は、山梨ブランドとしてまだ確立されていないと感じる。JAの販売促進戦略会議などを活用し、山梨ブランドとしての農産物を確立して、販売してほしい。</p>	
<p>2 未来につながるはつらつとした農業の振興</p>	<p>○ 醸造用ブドウについても生食用と同じくらいの単価であれば、生産者も力が入るのではないかなと思うので生産者の力になってほしい。</p> <p>○ 観光にも活かしながら、農業を産業として山梨の資源として、今後も維持していくために、農業者の「経営力」の強化を図っていく必要がある、今後は市町村との連携をこれまで以上に進めていくことが大事である。</p> <p>○ 果物や野菜の消費を拡大するため、キャラクターとのタイアップ等の手法を参考にするなどして、フルーツ王国山梨県の「食文化」を築いてほしい。</p> <p>○ 販路の拡大とともに、「販売力」を強化し、学校給食への利用促進に限らず、地域や職場等での山梨県産農産物の利用や消費を促進する機会を創出していく必要がある。</p> <p>● 今のまま温暖化が進むと、シカの増加が予想されるため、シカの肉を活かしながら皮も活かすという利用方法を検討してはどうか。昨今の鳥獣害対策という中で、もう一度シカの有効利用を考えてもらいたい。</p> <p>● 農業関係に関して、国、県、市町村がそれぞれ別々ではなく、一つのプロジェクトとして取り組み、行政、JA、農業生産法人などと協調していく必要がある。</p> <p>● 地域によって、峡東は果樹産地であり、新規就農者への農地提供がなかなか難しいが、峡西などの野菜が中心の地域だと新規就農者が入りやすいなどの、それぞれの特色があると思うので、ぜひそういう特色を出すことも県で考えてもらいたい。</p> <p>● 耕作放棄地が増加しており、行政、JA、農業生産法人が協調して取り組む必要がある。例えば、耕作放棄地を利用して醸造ブドウを生産し、良質のブドウでワインを生産し、ブランド化するなどの取り組みが必要。</p>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地産地消については、保育園から幼稚園、そして小学校、中学校の給食に地元の農産物を優先的に買ってもらう仕組みづくりをして、まず県内のものは県内の方々に消費してもらうことが大事。</li> <li>● 後継者対策については、農業である程度の収入が得られる仕組みになれば、就農者は増加する。農業の脚光を浴びている部分だけでなく、農業をすることは本当に厳しいということも見てもらう必要があり、そうした中でいろいろな施策を進めて、収入の得られる農業施策を考えないと後継者は育たない。</li> <li>□ 農業分野では高齢化が著しく、新たな担い手を確保することが喫緊の課題と考えているが、農業分野の雇用創出を支援していくために、県と市町村との連携した下支え、あるいは補助といったものもイメージしてつくってもらいたい。</li> <li>□ 輸出向け果実選果体制の整備については、JAにも支援してもらっているが、なかなか難しく手間が掛かるので、人件費なども含めた支援の強化を図ってもらいたい。</li> <li>■ 鳥獣害対策の推進の関連で、私の地区でも20年くらい前から見ると狩猟免許保持者が半減しており、先々が心配である。狩猟免許の取得に当たっては、労力や財政的な負担が大変なため、免許保持者の確保について、県の対策をお願いしたい。</li> <li>■ 就農者の課題である農地の確保や研修の場を確保が必要であり、そういった意味で新たな里親制度は、農地を紹介したり、技術も習得でき、非常に重要な制度だと思う。</li> <li>■ 耕作放棄地がたくさんあるが、それを紹介する仕組みができていないので、新規就農や農地の拡大を図る場合でも、どこが新たに耕作放棄地になったなどの情報がなかなか入らないので、農家と農地を必要とする人がお見合いするような、そういう場が必要だと思う。</li> <li>■ 今は直売が増えており、大きな流通に乗せるのではなくネット販売とか、もしくは高品質ブランド、付加価値を付けて販売していく仕組みとか、そういったブランド、付加価値を付けていく、以前は、アンテナレストランが新宿にあったと思うが、そういうところで首都圏の方々に山梨の特産品をアピールしていくのは非常に重要なことだと思う。</li> <li>■ 販売まで結び付けていく制度を考えて、経営として成り立つ農業を、ぜひ推進してほしい。</li> <li>■ 女性の農業者の育成に山梨県としてもっと力を入れてもらいたい。やはり人材育成の中で女性の役割がとても大切になると思うので、女性の農業者の育成を、県の「チャレンジ山梨行動計画」で、もう少し盛り込んでもらいたい。</li> <li>■ 山梨県の農産物の勝算は、生食だけでなく加工という部分で対抗していくということも考えていかないと見えてこないのではないかと。加工品も販売することによって、農業者の1年間の収入を安定させることができれば、今後の新しい農業の発展に繋がると思う。</li> <li>■ 今後も温暖化が止まらないので、もっと鹿などの獣害が出てくると思われるので、これらを何とかいい方向へ持っていくことができれば大変ありがたい。</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>☆ 県産農産物の販売戦略の推進に関して、農産物の販売の方法については、外に売るのも一つだが、中でうまく有効に消費する仕組みをつくるのも重要だと思う。その中で、学校給食の県内産化も、県と市町村がうまくタイアップして進めていけば、それなりの規模になるのではないか。</p> <p>☆ シカを食肉や印伝に加工することもできるよう連携を進め、支援していくことについても、明確にすべき。</p> <p>☆ 良いブドウなくして良いワインは造れない。今の現状として、甲州種ブドウについては、毎年植栽面積が減ってきている。農家もだんだん高齢化してくる中で、1軒当たりの栽培面積が減ってきており、また、意欲のある若手の農家は、どうしても単価の高い食用ブドウに流れていく現実がある。そういった中で、ワイン産地ブランドの確立には、どうしても醸造用ブドウの生産を拡大していくことが必要である。</p> <p>☆ 就農・担い手総合対策の推進に関して、農業は永続的なものだと思うので、一時期に金額をかけるというよりも、長期的なプログラミングをして、技術、経営、そして計画を、しっかり構築してほしい。</p> <p>☆ 山梨県の担い手の半分以上が女性であり、女性の勉強の場はとても大切だと思うので、県の女性のファームセミナーなどを今後も続けてほしい。</p>	
<p>3 健全な森づくりと力強い林業の振興</p>	<p>○ 緑の雇用対策事業を現場で見ていると、都会から来た人たちは、山での労働の大変さや危険をあまり認識せずに従事しているので、山での危険や必要な体力についても十分説明してほしい。</p> <p>■ 鳥獣害に関して、冬期間の可猟区が12月から4月までの林道の閉鎖によって立ち入れないため、本来狩猟期間中なのに捕獲できず、このために可猟区域での捕獲率が下がると聞いており、狩猟者に限り林道の閉鎖を解除する必要がある。</p> <p>■ 森林環境税を新たに課税していくことには、慎重な意見もあるということもぜひ含んでもらえたらと思う。</p>	
<p>4 地域とくらしを豊かにする中小企業の振興</p>	<p>○ 技術系人材の確保については、採用する企業側が正規雇用をしながら、技術を蓄積できるような環境にしていけないと、技術レベルが高まっていかないと、企業にその技術が蓄積されていかないと思う。</p> <p>■ 工業技術センターの試験研究機能の強化に関して、案内の方に講習会の場所を聞いても判らないなど、組織として活性化されていない。もっと県全体の関係する業種に携わっている人が活用できる施設であってほしい。</p> <p>■ 普段から県でいろいろやっている中小への支援の中で人材育成、技術支援、それから資金援助、これらについて、一層の取り組みの強化をお願いしたい。</p> <p>☆ ある程度の規模の企業が他県に流出することで、人口も少なくなり県が衰退していく心配がある。</p>	
<p>5 新産業創出への支援</p>	<p>○ 燃料電池はこれから大変期待ができると思うが、世界中の研究機関や自動車メーカーが膨大な費用を投入している状況の中では、県としてももっと積極的な施策も必要ではないか。</p>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
6 競争力のある商業の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中央商店街の活性化については、若い世代の企業経営者を啓蒙し、活用していく必要がある。若い後継者がいないと、なかなか難しいが、後継者対策も含めて我々としても県の努力をお願いしたい。</li> <li>● 中心市街地活性化については、何年も前から同じような政策が行われていて、毎年、中心市街地活性化をどうするかということが行われているが、では今までやってきたことが、具体的に結果がどうで、それをどう評価して、その反省を踏まえて次にどういう政策をするのか全く見えてこない。政策はすべて実施したら、その後結果を評価して、反省して次の政策に活かすということをやっていく必要があるのではないか。</li> </ul>	
7 経済・雇用対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後、どのように雇用の場を確保していくかということになると、輸出型産業中心の今までの雇用形態から、内需主導型の雇用をどのように増やしていくかということが必要になってくるのではないかと思う。</li> <li>○ 例えば農業分野や林業分野、環境分野に雇用移動するにしても、1人当たり例えば100万円ぐらいで雇用できるように補助金を出すなどして、雇用移動を考えていく必要があると思う。</li> </ul>	

基本目標6 「つどう・やまなし」の実現

○第1回部会 ●第2回部会 □第3回部会 ■第4回部会 ☆第5回部会

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
1 国内外に向けた山梨の魅力発信	<p>○ NHKの大河ドラマやディストネーションキャンペーンなど、トレンドとしてはインバウンドも含めて上昇基調にあるが、今後は農業・林業などを総合的に融合した観光施策をぜひやってほしい。</p> <p>■ 観光の情報を発信していることは非常に分かるが、もっと使う側にとって、自分たちのものであるという意識を高める取り組みについて、検討してもらいたい。</p> <p>■ ガイドツアーの内容には合わないという人もいっぱいいるので、そういう人に対して、何をお勧めできるのかということ、キャンペーンだけではなくて、日ごろの取り組みとして考えていく必要がある。</p> <p>☆ 観光の施策がメディアへの情報発信が中心となっていると感じられる。県民への説明と、観光客にどのように過ごしてもらおうかという視点がない。観光客が帰ってから、口コミで「山梨はよかったよ」と言われるような施策も必要でないのか。</p>	
2 時代のニーズを満たす多様な観光の振興	<p>○ 観光に従事する人々の人材育成を考えていく必要があり、例えば県立大学で観光に関する教育を取り入れることも考えられると思う。</p> <p>○ 「(山梨県版)観光白書」を作成し、山梨の観光をとりまく現状や問題、課題、着地型観光のメニューなど、観光に関する情報を網羅し、観光地としてスピーディーな対応ができるようにしてほしい。</p> <p>● 二地域居住の推進について、土日、週末は山梨で生活すると消費は山梨で増えるが、ゴミなどの処理コストも増加する。住民税は元の住居地に入るので、この辺りの整合性を取る必要がある。</p> <p>□ 山梨市などでの空き屋バンクの成功事例があるが、他でその成功例をすぐ活用してというわけにはいかないことから、県と実施している市町村との連携、あるいはまだ実施していない市町村へのスムーズな導入への支援など、成功事例を活用していけるような仕組みをつくってほしい。</p> <p>□ 二地域居住の促進と空き屋バンクもぜひ連動して活用していくような仕組みを広げてもらいたい。</p>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<p>○ 観光の分野などでは隣県との広域的な話がでていますが、やはり道州制もある程度見据えて考えていかなければならないと思う。</p> <p>● 県民意識調査の結果は、今まで私達や県が考えていた施策の必要性和、少しずれがあるのではないか。例えば、恵まれた自然の活用や道路の整備、公共交通機関の利便性の向上などは具体化すべきことだと思うが、大規模な観光キャンペーンの展開や外国人観光客の誘客については県民の関心があまりない。県民の感じ方と、県が考えていることが少しずれていないかということ、もう少し考える必要があるのではないか。</p> <p>□ これからのビジネスの方向というのは環境とエネルギーだと思う。二酸化炭素の具体的削減目標を政府が考えているわけであるから、それにマッチするようなエネルギー政策として、環境政策等による雇用の場がつけられるようにしてほしい。</p> <p>☆ 新しい形の農林漁業とか、観光とか、エネルギー開発とか、森林資源を活用した新しい建築とか不動産とか、こういった新たな産業構造を提案していくことが、長期ビジョンの中では必要ではないか。</p> <p>☆ 「時代の潮流と本県の課題」で地域産業の衰退と雇用情勢の悪化ということ、きちんと明確に記述したほうが良いのではないか。</p> <p>☆ 社会・経済のグローバル化の進展の中で、ローカルとしての山梨はどうあるべきかということ、記述してほしい。また、新たな視点としてぜひ「新しい公」についても記述してほしい。</p> <p>☆ これからのエコ時代を考えた時、やはり公共交通の充実が必要になるのではないか。県民の多くは一人一台の自動車通勤をしており、これを減らすことによって、さらに空気のいい山梨を創っていければと考えている。</p>	<p>環境部会へ</p> <p>環境部会へ 基盤部会へ</p>



# (参 考)

## 総合計画審議会部会審議等における意見、提言の要旨

(平成21年 1月 第1回部会審議)

(平成21年 6月 第2回部会審議)

(平成21年10月 第3回部会審議)

(平成22年 1月 第4回部会審議)

(平成22年 5月 第5回部会審議)

( 環 境 部 会 )

山梨県総合計画審議会

基本目標 5 「さわやか・やまなし」の実現

○第1回部会 ●第2回部会 □第3回部会 ■第4回部会 ☆第5回部会

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>1 豊かな環境の保全と継承</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本県は、果樹王国であり、広大な森林を有する特徴ある県土であることから、農業の推進なども含めて、環境対策も考えていけたらいいと思う。</li> <li>○ 便利を追求するあまり環境を壊していくということは、あってはならないことだと思うので、県民に対する啓発活動をやっていただけたらいいと思う。</li> <li>○ 環境保全のために不便になるならそれは後退ではなく、真の前進であるという、意識の啓発を図ることが必要だと思う。</li> <li>○ 県は何が本当の「エコ」なのかを追求し、県民に伝えてほしい。また、本県も他県の長所を取り入れ、地球温暖化防止策やごみ削減の方法を明確化し、広く県民に関心をもってもらうことが先決ではないかと思う。</li> <li>○ 総合計画審議会全体に関わると思うが、縦割りだけではなく、横断的に見るということを考えていただきたい。</li> <li>○ 自動販売機のことについてであるが、景観や交通安全等の観点からも、できるだけ減らしてもらいたいと思っている。</li> <li>○ 地球温暖化については、もう少しアンケートをち密にやって、規制を考えたほうが良いのではないか。</li> <li>○ 物事にはいろんな面があり、ある面では地球温暖化に貢献するにしても、景観上悪いとか、コストがたくさんかかるとか、そういう矛盾もあるので、他の分野に意見を伝える機会を設けてほしい。</li> <li>○ エコドライブの推進に関してであるが、地球温暖化防止センターと県内の 138 人の推進員が一緒になって、総合交通センターで、免許更新者にエコドライブ推進の呼びかけを行っているが、これらに対する支援を行っていただきたい。</li> <li>○ 二酸化炭素をどのようにしたら削減できるのかというノウハウが分からない人もいるので、詳しいガイドラインなどを作ったらいいと思う。</li> <li>○ 県内には急流河川がたくさんあり、小水力発電設備はかなり設置可能だと思う。また、太陽光発電も進めて欲しい。</li> <li>○ 木質バイオマスの活用も大きな柱だと思うので、忘れないでいただきたい。</li> <li>● 最近ショッピングセンターなど、大きい店舗ができ、広い駐車場が裸のままになっているが、植樹によりカバーしあまり暑くならないようにするという計画は有効だと思う。</li> <li>● 行政には、環境に関して勉強するような意識啓発活動に努めてもらい、何が本当のことなのかを理解できるような取り組みをお願いしたい。</li> <li>● 環境保全を進めるには、「環境のための出張講座」や学童に対する行政の出張講座など、モラルを教えることが先決であり、教育現場も含めた県民総ぐるみの意識改革に予算を使うべきである。</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 富士山は、山梨県を代表する素晴らしい自然があるので、自然遺産ということにも目を向け、文化と自然と両方の素晴らしい富士山を後世に残していけたらと思うので、啓発をお願いします。</li> <li>● 税金の使い方に疑問があると一県民、一国民のモチベーションが下がる。行政と県民が一体感を持って取り組める仕組みが必要である。</li> <li>● 県内の中で何が起きていて、これからどんなふうになってしまうのかという予測を自分たちでも立てられるぐらいの、モニタリング、実態調査の重要性を、ぜひ認識してもらいたい。</li> <li>● 現在は非常に不景気であり、税収の問題から見て、雇用経済のほうにシフトされるだろうと思う。ぜひ環境対策に十分な予算を当ててもらいたい。</li> <li>● 最近、緑のカーテンなどと盛んに言われている。率先して行政の方からやっていけばよいと考える。</li> <li>□ 甲府市の都市集積地に比較的小規模な公園をつくるという施策が出てきていないが必要だと思う。</li> <li>□ 富士山の頂上に自販機があると聞いたが、世界遺産に登録を目指す山の頂上に自販機があるというのは非常に不自然である。まだ残っているならば、検討する価値がある。</li> <li>□ 温暖化対策について、昨年度、(21年3月までに) 条例や計画をつくり、ちょっとひと安心というような雰囲気漂っているような気がしてならない。本当に削減をするのはこれからであり、県、各関係機関においても、一生懸命対策を取っていく必要がある。</li> <li>□ 社会的に何かをやっていることに対しポイント制度のようなインセンティブを与えることを県全体で考えられないか。フードマイレージのように県でのポイント制度システムの構築を考えてもらいたい。</li> <li>□ 山梨県民全体で、環境を切り口として、経済や社会の活性化につながるよう取り組んでももらいたい。</li> <li>□ 環境対策について、「経済(消費)を縮小させてでも、環境を守っていく」のか、それとも、「経済はそのまま維持または拡大させて、環境への負荷を軽減させることを努力していく」のか。県としての根本的な理念をはっきりうたう必要がある。</li> <li>□ 全国に先駆けて、民生部門領域での温暖化防止の取り組みに対するエコポイントの検討を行うことを提案する。</li> <li>□ 先進国は、排出権を安易に買うのではなく、自分たちで削減をすることを基本にすべきである。山梨県も、自分たちで削減するという姿勢で臨んでいくべきである。</li> <li>■ 温暖化対策として大事なものは排出削減対策であり、各部門と力を合わせて一生懸命取り組んでほしい。</li> <li>■ 山梨の大事な水をどのようにこれから保存していくのかについても検討してもらいたい。</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 様々な対策の効果を調べる仕組みも必要である。大学、研究者の方々を上手に使い、県の大事な資産である環境について、把握してほしい。</li> <li>■ 地下水、わき水の枯渇や地下水汚染についての研究も環境問題のうえではとても大事なことであり、予算を割いてもらいたい。</li> <li>■ 湧き水の枯渇等は調査を行い、原因をはっきりさせておくべきである。こういう研究については環境科学研究所だけでなく、県内の様々な機関や県民の力を借りて、調査結果も分かりやすく公表することが必要である。</li> <li>■ ヒートアイランド現象について、公共の建物が率先し、ヒートアイランド現象を防止する取り組みを進めることでCO2削減になり得ると思う。</li> <li>■ CO2削減と言うだけでなく、山や水、風景を守ることの大切さを強調していくべきである。</li> <li>■ 県が先頭に立って環境をウォッチングしているということは、農産物や水を保護しつつ、自然豊かであるとの山梨県のイメージを強化することになり、間接的に山梨県の発展に貢献できる。</li> <li>■ 県内の川の水質検査の報告書によると、県内の川の汚染は進んでいる。水質についての調査、研究について行政の協力をお願いしたい。</li> </ul> <p>☆ 温暖化対策の一番の基本は、発生抑制である。</p> <p>☆ 産業というのは、ある程度、国が排出枠を設定して規制的な措置を行っていくことが必要となってくるが、そういう規制的な措置がかからない自動車と民生は、地方公共団体が取り組んでいかなければならないと思う。自動車を減らすには、マイカーから交通機関に転換することが大事だと思う。</p> <p>☆ 太陽光発電等に取り組むのと同時にエネルギーを減らすため、知恵を出していかなければならないのではないかなと思う。</p> <p>☆ 地球温暖化の進行と言ってしまうと良いのか、また、化石燃料や電力の消費そのものを減らす発生源対策を行っていくべきではないかなと思う。</p> <p>☆ 温暖化到来に対応した農作物の生産も視野に入れ、議論していくことも大事ではないかなと思う。温暖化防止の対策と併せて温暖化になった際の対策について議論することも県として大切ではないかなと思う。</p> <p>☆ CO2の発生源の4割を運輸部門が占めていることに関連し、発生抑制のためには、どのように自家用車対策に取り組んでいくかが大切となってくる。</p> <p>☆ 自動販売機やコンビニの24時間営業等、民間の産業部門のCO2排出量を抑制するため、営業自粛を行っている取り組みを調査し、同様の取り組みを働きかけていくべきだと思う。</p> <p>☆ CO2対策として、行政は緑のカーテンの一般家庭への普及を図るため講習会を開催しているが、苗木の購入方法から棚づくりまで含めて一連の講習会としてほしい。</p>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>☆ 各家庭から出るお茶殻を集めれば、良いエネルギーになるのではないかと思います。</p> <p>☆ 南アルプスの農家には、剪定した枝を使ってバイオ燃料としたい農家もいるので、枝を集めるような仕組みを構築してほしい。</p> <p>☆ 放牧農地に農家以外の方が、たらの芽を植える活動をテレビで見た。同様の活動を耕作放棄地で出来れば、吸収源として役立つのではないかと思います。</p> <p>☆ バスの乗車人数が少ない時間帯は、小型のマイクロバスに変えても良いのではないかと思います。</p> <p>☆ 里山の整備も考え、暖房用燃料にウッドチップを使う方策も考えていければ良いのではないかと思います。</p> <p>☆ 景観計画の策定は各市町村で行うとの説明であったが、全市町村で早く計画を策定していただけるよう県からの働きかけや県民の景観づくりに対する意識の高揚が図られるような啓発活動も行ってほしい。</p>	
<p>2 循環型社会システムの構築</p>	<p>○ ごみの処理方法について助言する機関があると良い。</p> <p>○ 以前テレビでごみを簡単に肥料にできる方法を紹介していたが、そうしたことを県で普及してみたらどうか。</p> <p>● 廃棄物の量を減量してリサイクルすれば、焼却には回らないので、リサイクルシステムづくりを行い、同様な処分場を幾つも造ることは避けてもらいたい。</p> <p>● 県はごみの減量化やリサイクルの展望を踏まえた、総合的なごみ処理行政のビジョンを示すべきだと思う。</p> <p>● 布団は CO2 の排出量のカウントが容易であり、量が多いところから対処するという事で、新しい方法として屋上緑化の資材として使えないかという実験も始めようと思っているので、支援をお願いしたい。</p> <p>● 焼却灰は、何か工業用にリサイクルできる方法はないのか。そうすれば処分場建設について検討しなくても、何とかかなるような気もする。</p> <p>● ごみの問題として、ぼろの再利用に取り組んでももらいたい。</p> <p>□ 民間の人たちへも、不法投棄などの現場を見たら注意できる資格を与えてもいいと思う。</p> <p>□ ごみの不法投棄や家庭のごみを燃やすことについては、モラルの問題もあるが、県警に特別なプロジェクトチームをつくり、犯罪として摘発をすることが必要だと思う。</p> <p>□ ごみの問題は、教育問題の一言に尽きる。環境を良くし、捨てる環境をつくらないようにしなければならない。</p>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>□ ごみの排出について、何をどれだけ減らせばいいのか等を説明し、目標の達成の道筋を出してもらえれば、励みが出る。</p> <p>■ 自分たちの出した廃棄物は県内で始末することの必要性を県民に伝え、対策を考えるべきである。</p> <p>☆ 赤字が35億円も生じるのであるならば、次に建設予定の境川の建設を早め、明野処分場を早く閉めてしまったらどうかと思う。費用のことを考えるとこちらの方が効果的であると思う。</p> <p>☆ 一般家庭用使用済み食用油の回収を始めたという新聞記事を見た。同様の取り組みが全県下に広がれば良いのではと思う。</p>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<p>○ 男女共同参画推進センターが指定管理者に移行しても、今まで通り、地域住民が男女共同参画の視点で、いろんな事業に参画できるようにしてほしい。</p> <p>● 農業の問題が出ているが、お年寄りや若い人たちに希望のもてる農業となるよう取り組んでほしい。また、地産地消を進めてもらいたい。</p> <p>● 山梨県の周囲には森林が多く、これを保護していくのはいいが、山梨県民の税金だけではなく、下流域の都県に負担させてもいいのではないかと。</p> <p>● 間伐量等の調査は必要かもしれないが、できるだけスピーディーな取り組みにより、森を守る、環境を守るといった方向に目を多く向けるべきである。</p> <p>● 森林のモニタリング調査が、道路整備や林道整備に比べ、非常に少額な予算で調査が実施されている点について、もう少し考え直してもらいたい。</p> <p>□ 生涯学習推進センターについて、安心して通える場所にしてほしい。</p> <p>□ 県民一人ひとりが地産地消に対しての意識を少し変えていくだけで、変わっていくと思う。</p> <p>□ 森林の間伐において、農業協力隊のような、森林の間伐をする森林間伐協力隊という事業を興すようなことは考えられないか。</p> <p>□ 森林の整備については、森林所有者に対して、環境整備をするインセンティブをもう少し具体的に効果があるように考えるべきである。</p> <p>□ 森林保全の費用負担について、できることはやるのではないかと。</p>	<p>教育文化部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>教育文化部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p>

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>□ 県民が山梨県のCO<sub>2</sub>を削減するために、県や団体、企業が森林を整備してCO<sub>2</sub>の吸収を良くするべきである。</p> <p>□ 雇用対策の推進について、峡南高等技術専門校の敷地内の廃校舎を再利用して、住むところがない人、生活が苦しい人達のために技術を体得させ、社会に送り出す方を検討すべきである。</p> <p>□ 峡南高等技術専門校には立派な2階建ての建物があるが閉鎖している。廉価な家賃で仕事にあぶれた人を雇い入れて、そこで勉強させ、耕作放棄地や里山のために作業をさせるということは、考えられないか。</p> <p>■ 山梨県は環境を大事にしており、森林保全のためなら多少負担しても良いという県民の声が非常に多い。県民の思いは早く実現し、大切な森林を県民が総力を挙げて守るということで、森林環境税は一刻も早く導入してほしい。</p> <p>■ 森林環境税について、時間をかけて地道に県民に周知ことも大切である。現に約86%の県民が森林環境税について意識を持っているので、この機会を逃さず、良い政策であるので進めてもらいたい。</p> <p>☆ コンパクトなまちづくりや公共交通の整備等調査研究していく必要があると思う。</p> <p>☆ 甲府駅前は大変混雑しており歩く者にとって大変危険である。利用者にとって安全で利便性の高い駅前広場となるような整備をしていただきたい。</p>	<p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>基盤部会へ</p> <p>基盤部会へ</p>

# (参 考)

## 総合計画審議会部会審議等における意見、提言の要旨

(平成21年 1月 第1回部会審議)

(平成21年 6月 第2回部会審議)

(平成21年10月 第3回部会審議)

(平成22年 1月 第4回部会審議)

(平成22年 5月 第5回部会審議)

(教育文化部会)

山梨県総合計画審議会



基本目標 4 「はぐぐむ・やまなし」の実現

○第1回部会 ●第2回部会 □第3回部会 ■第4回部会 ☆第5回部会

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>1 豊かな学びを支える教育環境の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ものづくり人材育成の実践についてもっと低学年からの教育は必要だと思う。</li> <li>○ 地域や産業を連携させ、ものづくりの立場から手を使うことが重要、コーディネート役も重要。</li> <li>○ 知識が必要ということはそのとおりだが、今、忘れられているのは、ものづくりのこと。例えば、農業はものすごい技術がある。そういう中からいろいろなものが学べると思う。</li> <li>○ ものづくりは単に技術という意味ではなく、人間が手を使うことで考えることの楽しさ、大切さを感じる。人は脳だけでなく、手を使って考えることの大切さを忘れてしまっている。その点は教育にも通じるものだと考える。</li> <li>○ 特別支援教育について、現行計画にも変更計画にも記載がないように思う。特別支援教育についてどこかに記載してもらいたい。</li> <li>○ 小・中学校で教育を受けてきた発達障害等の生徒達の受け皿として、通級指導教室を高等学校にも設置するとか、高等支援学校の分校を設置するとか、そういう教育も受けられる場を検討してもらいたい。</li> <li>● 中一ギャップを解消するためにも、これから統合されようとする小中学校を極力、近隣に配置されるよう県から指導をしてもらえるよう要望する。</li> <li>● 市町村と県の教育行政が連携をとり、人材や、体制を整備していくことを教育の重点に置く必要がある。行動計画の見直しの基本の中に、教育を原点に据えてほしい。</li> <li>● 体をつくることと学力向上はイコールになっていく面が多いと思う。毎日の積み重ねが大事だと思うので、体力づくりの課題を学校で解決するための計画を策定してほしい。</li> <li>● 理数系の強化が必要ではないか。小中学校のうちから理数系離れしないような教育が必要だと思う。</li> <li>● いろいろな形で教員の再教育ができるような環境を整えてもらいたい。</li> <li>● 教員の質の向上が第一に大事だと思っている。基礎・基本をきちんと教えて子どもたちが満足し、ものが分かることの喜びを感じる授業をするというのは、教員の指導力にかかっている。その点について配慮をお願いしたい。</li> <li>□ どんな行政施策を行うにしても、原点は教育である。教育を大事に思いながら、今の経済状況の中では、特に生活者視点で、施策の見直しを行って欲しい。</li> <li>□ 教育の場に教育委員を活かすには研修、情報交換は必要。情報は全員で共有していかないと解決の手立てにはいらない。以前は、管内の委員の研修があり、大いに委員としての活動源となった。何か方法はないか。</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>□ かなり貧しい人がいる。貧しい中でも能力があれば、自分の力で伸びていけるという夢を与えられる、例えば奨学金や何か夢につながるものやっていくことも必要だと思う。</p> <p>□ 今年度、新たに入ってきた生徒の家庭をみると、入学金や授業料等などが払えない家庭が増えており、経済的な支援は必要。</p> <p>□ 産業とか地域とかの横のつながりが大切。審議会の部会にも環境部会というのがあるが、そちらの意見を聞いたり、いろいろすべきである。</p> <p>□ 一番大事なのは、家庭の環境。家庭で子どもをしっかりと教育していくことが非常に大事だと思う。</p> <p>□ いろいろな形で教員の再教育ができるような環境を整えてもらいたい。</p> <p>□ 職業を知り得る機会が限られているため、小学生から職場体験を行わせる必要がある。</p> <p>□ 新たな県立高等学校整備構想の推進のため、内容がわかる冊子、DVDを作りたい。</p> <p>■ 特別支援教育に関して、近年、知的障害を持って入学する子ども達は激増しており、教育現場での対応が非常に困難であるため、今以上に支援をお願いしたい。</p> <p>■ 低学年は、ものづくり教育に重点を置くべきだ。</p> <p>■ キャリア教育において、地域連携という点から何ができるのか検討してもらいたい。</p> <p>■ 学校を統廃合を人数割だけですることはやめていただきたい。学校は地域の中心となる存在であるから、慎重に検討してもらいたい。</p> <p>■ 学校の再編に関しては、生徒などに様々な影響も考えられることから、慎重に検討してもらいたい。</p> <p>■ 学校教育を充実させるためには、教員の資質向上が欠かせないと思う。採用時にしっかり面接をして、学歴だけでなく人間的な評価で採用してもらいたい。</p> <p>■ それぞれの高校で、その高校独自の特色を生かした部活動や授業があってもいいと思う。</p> <p>■ 高校の再編整備に関しては、適正規模という考え方は参考程度にして、地域文化の拠点ともいえる高校を残してほしい。</p> <p>■ 携帯電話を介した犯罪など、情報モラルについて小学校の低学年の時から啓発してほしい。</p> <p>☆ 今までは、地域と学校の結びつきが離れていたとも言える。今後、地域の核となる学校と地域との関連性をキャリア教育で結びつけていくことは、非常に大切なことだ。</p> <p>☆ 小学校低学年において、職業と社会との関連性を知ってもらうことは非常に大切なことだが、ものづくり人材という点では、低学年の児童に対して現在の価値観を与え過ぎてしまうことに関しては、配慮が必要だ。</p>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>☆ キャリア教育アドバイザーである教員の中には、民間企業の現状等をご存じない方もいると思うので、社会的にいろいろな活動をしている方も含めて、アドバイザーになっていただきたい。</p> <p>☆ 個人の能力に合った就職の指導が大事だ。</p> <p>☆ 教員の企業研修は非常に有益なものだと感じているが、今後さらにこの制度を推進していくためには、現場の多忙さ、教員定数の問題など、様々な課題を解決していかなければ現場は混乱するので、そのあたりを考えてもらいたい。</p> <p>☆ 学校評議員制度、学校外部評価委員制度などが形骸的になっているのではないか。このような状態から抜け出すいい別の方法はないだろうか。</p> <p>☆ 社会には多くの職業があり、それを選択することができるということを子ども達に伝えていく人材を、教育委員会で考えられないだろうか。</p> <p>☆ 小中高全部に教員の正規雇用を要望する。</p>	
<p>2 個性を活かし未来を拓く 学校教育の充実</p>	<p>○ 学校で問題とされている道徳的なことやいじめの問題などは、家庭教育で対応するべきだと思う。</p> <p>● スクールカウンセラーの増員等、不登校生徒と専門に向き合うことのできる先生の配属を望む。</p> <p>● いじめ・不登校対策として、専任教員の増加が成果として必要なら、もっと増員を望む。</p> <p>● 山林に恵まれ、空気もきれいな環境にいる中で、教育的な見地から考えると、森林を大事にするような、心を育むというか、教育の観点にそういうものを植えつけていく必要がある。</p> <p>● 生きる力をはぐくむ教育のため、就学前、幼稚園、保育所、小学校、そして中学校と、それぞれ連携がとれる場と機会を拡充していただきたいと思う。</p> <p>● 新しい学習指導要領ができ、学力の視点が強調され、中学校では、武道とダンスが必修化となり、指導できる教師の配置が必要。</p> <p>● 不登校が急に増加するのが中学校1年生。小学校と中学校の連携、接続がうまくいっていないとよく言われるが、縦の接続を重視していくことは非常に重要だと思うので、是非、強力に進めていただきたい。</p> <p>● 山梨県は閉塞感のある地域だと感じる。山梨県出身で活躍している人に協力してもらい、広い世界があるという雰囲気が県全体に広がっていき、夢が与えられればとてもいいと思う。</p> <p>● 小学生の頃から介護の場面を見ることや体験する場があるということが今後の高齢化社会においても大きなキーワードになると思う。</p> <p>□ 最近、運動をする先生というタイプは少なくなっているような気がする。体の動ける先生の配置を考えてもらいたい。特に女性の体育教員が少ない気がする。</p>	<p>○</p>

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>□ 郷土学習教材の発展として、中・高校生は、英語で郷土を紹介できるようになってもらいたい。県民ガイド予備軍として、使える英語を用いて活躍してほしい。</p> <p>■ 専門的なスキルを学ぶ高校に進学しても、基礎的な学力を向上させる対策をして欲しい。</p> <p>■ 道徳教育を充実させてほしい。</p> <p>■ 栄養教諭の配置の拡大を進めてほしい。</p> <p>☆ スクールソーシャルワーカーになるために必要な資格とは、第一の条件は社会福祉士や精神保健福祉士等の資格を有する者、第二の条件は、教育と福祉の両面において専門的な知識、技術を有するとともに、過去に教育や福祉の分野における活動経験や実績がある者とのことだが、第二の条件に当てはまる方々が適切と判断されるのであれば、資格として本来どのような資格が一番相応しいのか検討していくべきである。</p> <p>☆ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが常勤の勤務になることはないのか。</p> <p>☆ 地域連携の中で地域として教育力をどう高めていくのか、社会教育がどのように関わっていくのか、教育委員会の重点施策として考えてほしい。</p> <p>☆ 学社の連携によって、地域の活性化や教育力を高めていくことにつながるので、今以上に地域連携、社会教育に力を入れていくべきである。</p> <p>☆ スクールカウンセラーが学校に来て親や子どもたちの前で非常に有益な話をしていただいたが、業務が非常に多忙なようで、時間的に意見交換が思うようにできなかった。もっと、ゆとりのある活動を望む。</p> <p>☆ キャリア教育アドバイザーが、増員されることが望ましいが、まず親が子どもに自分の職業感を語る、などの取り組みを広めていけばキャリア教育アドバイザーが増員されなくても、キャリア教育のねらいが浸透していくはずだ。</p> <p>☆ 少人数教育を推進していくことが学力の向上に、少なからず可能性があると思う。せひ小学校から中学、高校までそれを広めてほしい。</p> <p>☆ 来年度から教科書の内容が確実に増える。今以上に教員の余裕がなくなることも想定され、施策が変更していくこともあると思うが、先を見据えていろいろなことを考えてほしい。</p>	
<p>3 明るく活力に満ちたスポーツの振興</p>	<p>● 体力テストの結果が大きく低下している。手っ取り早く子どもの体力を向上させることができるのは学校ではないかと思うが、学校で体力づくりを課題としているところが随分少ない気がする。</p> <p>● 運動と言うだけで、苦手と思う子ども達もいる。体操や踊りなど、小学校の運動会で行われていたが、十分な運動量だと思う。スポーツジャンルでなくても、例えば、鬼ごっこなどでも運動不足の解消になると思う。</p> <p>● ハード的には整備されてきているが、ソフト的には、県民のスポーツの普及という点で少ない。総合スポーツの企画や計画は、各地域で頑張っている。そういうところを大いに支援をしてもらいたい。</p>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>4 地域における文化・伝統の継承と文化力・教育力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先生が忙しいというのは本当だと思う。それは何かをやると必ず本など形に残るものをつくる。だから、ハードよりもソフトの面、内容を充実させることによって、先生方に余裕ができるのではないかと思う。</li> <li>○ 学校、家庭、地域の三者が連携することは、非常に重要であるが、先生が忙しくて、子どもと向き合う時間が確保できない。子どもと向き合う時間が確保できないのだから、家庭と地域と連携するにも時間が確保できない。</li> <li>○ 教育は” 共育 ” である。良い教師ほど生徒からも学ぶことが多いかと思うし、地域が一体となって学ぶ姿勢が大切。そのシステムづくりのコーディネートが必要だが、それは学校やPTAなどのノウハウではできない。</li> <li>● 国民文化祭に関し、山梨には全国的に誇れる文化的な催事がないため、継続して行われる文化催事が必要。</li> <li>● 家庭内、学校、地域、職場でも疎かになった、あいさつを意識的に行うことが必要。</li> <li>□ 「国民文化祭」開催に向けての取り組みについて県内各地に伝承されているお神楽を巡るツアー企画など、戦略的に県外から観光客を誘致して、山梨の文化の発信ができるような計画ができるといい。</li> <li>□ 平成25年に国民文化祭山梨大会が開催される。これを機会に周知期間も含め、広報活動を徹底的に行い、県民すべてが関心を持ち、市町村においても何か一つでも関わり取り組む体制がとられるようにしてもらいたい。</li> <li>□ 国民文化祭に関し、山梨県は非常に珍しいお祭り、芸能が残っている。それについても、後継者が育っていないので、山梨県の各地にある芸能を一挙に開催して見られるようなプログラムがあればいいと思う。</li> <li>□ 富士山が世界文化遺産になろうとしており、これからは自然環境と文化の関係が重要視されてくるので、環境県山梨が全国に先陣を切って「環境国民文化祭」を実行していただきたい。</li> <li>□ 国民文化祭の事業をこれから検討していく時、環境の関係者を入れるよう要望したい。そういういろいろな内容の話聞くような取り組みを要望したい。</li> <li>□ 国民文化祭について、もっと県民に周知して欲しい。「緑のふるさと」（県民愛唱歌）など、県民全員で合唱できるような曲を用意してはどうか。</li> <li>□ 国民文化祭について、日本文化、地域文化に目を向け、子どもたちに伝承できる内容にして欲しい。</li> <li>□ 国民文化祭が本県で開催されることを知らない人が多い。テーマソングを早くから用意し、小中学校や地域で歌い広めたらPRになると思う。手話も取り入れ、手話ソングとして県民大合唱ができれば山梨の宝になると思う。</li> <li>□ 高齢者のひとり暮らしの問題も子育ての問題も地域に根を深く張り込んでいるので、地域の人たちがしっかり問題として捉えて、語り合う場に出てくるような仕組みが必要ではないか。</li> <li>■ 学校応援団について、県広報などで毎月コーナーを設けて、いろいろな学校応援団を紹介したらどうか。</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>☆ 私の周囲では、まだ国民文化祭が山梨県で開催されることを知らない方が多いので、もっと広くPRしてほしい。</p> <p>☆ 国民文化祭のテーマ曲、テーマソングなどの募集をしたらどうか。小中学校、高校の児童生徒でも全員が口ずさめるような、簡単な曲があれば後々山梨県の財産になると思う。</p> <p>☆ 学校応援団について、退職後に地域の学校に対して応援したいという気持ちを持っている方は沢山いらっしゃるが、学校側としては何を応援してもらうのか模索している部分もあるはずなので、具体的なものを提示していただければいいと思う。</p>	
<p>5 県立文化施設の整備・活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新県立図書館と既存の図書館とは、どこがどう違うのか、山梨県の学習拠点として何を打ち出していくのか、そういうものが明確にされると、県民としては非常に分かり易くなる。</li> <li>● 県立文学館の魅力向上について、指定管理者について、目的や理念をきちんと理解している団体が選ばれるような選考基準であって欲しい。</li> <li>□ 生涯学習センターについて、安心して通える場所にしてほしい。</li> <li>□ 必ずしも数字ということではなくてもいいと思うが、例えば、来館者が、スタッフに口頭で伝えたことなども記録として残しておいたほうが評価の材料となるのではないか。</li> <li>□ 文学館で来館者も活動できるような参加型のワークショップを企画することもいいのではないか。幼児も含めた親子で俳句をつくる会などいかがか。</li> <li>□ 県立文学館を具体的に学校教育の中に取り入れていくのか、文化財などを積極的に学校教育に取り入れられるような方法、文学館まで遠い学校への手当やパソコン等の利用の検討をしていただきたい。</li> <li>□ 県立文学館について、小・中・高校生にとっても魅力のある企画が必要。</li> <li>□ 県立文学館の魅力向上について、「親子ほのぼの朗読会」は、とてもよい企画だと思う。開催曜日・時間をいろいろ変えてもらえるとありがたい。また、企画展は、子ども達も楽しめる内容であって欲しい。</li> <li>■ 新県立図書館では、ネット上で蔵書を検索するシステムを取り入れて欲しい。</li> <li>■ 新県立図書館は、地域の図書館とどこが違うのか、特色は何があるのか、県民や学校の現場に示してほしい。</li> <li>■ 県民が親しみを持つような新県立図書館にしていきたい。</li> <li>■ 新県立図書館で設置される山梨県郷土資料コーナーについて、学校で利活用できるようにしてもらいたい。</li> <li>■ 新県立図書館に、語り部を登録し、活用できるサービスは考えられないか。人材活用という面からもいいと思う</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<p>□ 家から一歩も出られない不登校の子どもがいる。地域でもいろいろな居場所づくりを行っているが、児童館など横の関係の中での居場所づくりができないか配慮してもらいたい。</p> <p>□ 環境・資源・エネルギーについて、児童・生徒たちは、これから社会人になり、山梨県の中心になっていかなければならない方々であり、環境の視点が、しっかりと前面に打ち出せるような、そんな施策をお願いしたい。</p> <p>□ 文化行政と環境、学校教育、産業振興を結びつけた施策をお願いしたい。</p> <p>□ 山梨に一番望むのは情操教育。美術教育が少なくなり、不満であるが、実は、環境教育により十分それができる。環境教育と上手く結び付けて行えば、情操教育になる。</p> <p>■ 医者が地域に戻るようにするには、医者主導ではなく、行政の福祉政策や看護師さんなど地域の中で在宅医療を盛り上げていくことが必要だと思う。</p> <p>■ 心のケアについては、県立中央病院の診療内科（青少年用）の受診予約は、3ヶ月待ちとも聞く。他に相談窓口はいろいろと用意されてはいるが、専門治療を受けられず途方に暮れる親子も多い。このような状況が改善されることを望む。</p> <p>☆ 教育には、様々な産業、環境など、すべてにつながりがあると思う。その中でも、特に環境というものをキーポイントにしていただきたい。山梨県は環境立県であるので、ものづくりや美術、音楽にしてもすべてのものが環境を抜きにして考えられないと思う。</p> <p>☆ 暮らしやすさ日本一という県土づくりを考えるにあたり、一番暮らしに影響するのは社会情勢や経済情勢の変化だと思う。中でも環境問題などいろいろと解決すべき課題が到来してきたという潮流を県民に伝えていくべきだ。</p> <p>☆ 時代の潮流として、産業、環境、文化など各部局の考えを横の関連性を持ちながら、どのように新しいものにつなげていくかが大事だと思う。いろいろな分野との関連性を持たせるような形として、本県から提案していくことができないかと考えている。</p>	<p>安心安全部会へ</p> <p>環境部会へ</p> <p>環境部会へ</p> <p>環境部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p>

## (参 考)

### 総合計画審議会部会審議等における意見、提言の要旨

(平成21年 1月 第1回部会審議)

(平成21年 6月 第2回部会審議)

(平成21年10月 第3回部会審議)

(平成22年 1月 第4回部会審議)

(平成22年 5月 第5回部会審議)

(安心安全部会)

山梨県総合計画審議会



政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>1 危機管理体制の確立と地域防災力の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 阪神大震災の時に段ボールでおむつや乳児の服を送った経験があるが、乳幼児は絶対数が少ないので取り残される傾向がある。県内で有事の際、「赤ちゃんはあそこへ行くといいよ。」という所があればよい。</li> <li>○ 災害時に障害者を適切に救援できるよう、その特性など個々人の細かな部分まで説明することが必要である。</li> <li>○ 食品への毒物混入や食品偽装など食に関する事故や不祥事が相次ぎ、消費者の食への信頼が揺らいでいる。食品の安全確保に向け、食品事業者に対する監視指導を徹底する必要がある。</li> <li>○ 食品の安全確保に向け、事業者も自ら点検することで事故等を防げる要素が十分あると思う。事業者の自主管理を促進する必要がある。</li> <li>○ 犯罪の抑止には警察と住民が一体となった協力体制が必要不可欠である。犯罪の抑止のみならず、福祉の面においても、自主防犯ボランティアの協力体制の確立が望まれる。</li> <li>○ ボランティアの組織化の促進について、民間の段階でやれることにはもう限度がある。「自助・共助・公助」の中の「公助」で、協力体制をとる必要がある。</li> <li>● 地域に立ち上がっている地域自立支援協議会と緊密な連携をとると、障害者への対応が十分図られるのではないか。広域消防運営計画の作成には、障害をもった当事者の意見が十分反映できるようにお願いしたい。</li> <li>● 食品表示ウォッチャーによるモニタリング活動の実施について、県に報告した事例についての対応状況を知らせてもらえると、モニタリングする者にとっても励みにもなり、この制度の趣旨の理解も深まる。</li> <li>□ 防災訓練については、我々のレベルでは初期消火の訓練ぐらいで、それ以上の訓練が出来ない。県が中心となって実施すれば大規模な訓練が可能となり、住民も多く参加できるので、引き続き年に何回か実施してほしい。</li> <li>□ 地域防災体制の確立に向け、災害弱者への配慮について考えていく必要がある。</li> <li>□ 地域の犯罪などの情報を携帯電話にメールで知らせるシステムがあるが、より多くの人が身近な犯罪の情報を得られるよう、携帯電話購入時に登録を促すなど、PR活動を積極的に行ってほしい。</li> <li>□ かつて障害者施設は、立地条件の悪い所へ追いやられた経緯があり、悪条件の所に立地した施設も多いので、災害発生についてあらゆる可能性を点検してもらいたい。</li> <li>■ 災害、防災に関する意識を、平素しっかりと理解、実感させる防災教育が大変大事である。家庭と学校が、この問題でしっかりと向き合うような機会をつくる必要がある。</li> </ul>	
<p>2 あたたく多様な子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 企業を巻き込んだ子育て支援というと、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた企業の取り組みを思い浮かべるが、「子育て応援カード」の発行のような、企業にもメリットがある事業が必要である。</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 親子に商品紹介をすることで企業から頂く協賛金を活用して、パンフレットを作って子育て家庭へ情報提供したり、経済的に困っている親子に対して厚い支援をすることを、積極的に実施していく必要がある。</li> <li>○ 女性が子どもを産んで育てることは、素晴らしいことだ、社会的に地位が高いことだ、という評価が得られるような風潮を作る運動を進めてほしい。</li> <li>○ 子どもを産むこと、育てることが非常に崇高だという考え方を普及させる一方で、そういった子どもを育てるための環境をしっかりと整備することが重要である。</li> <li>○ 産んでからの対策は多数行われているが、産まれないことには対策も効かないわけで、結婚して産みたくなる環境を整えてほしい。</li> <li>○ 子どもを産んだあと、子どもを育てながら仕事をする生活のイメージを持てることが大切である。</li> <li>○ 子育て支援、少子化対策について、男性である我々がもっと踏み込んでいって、子どもをみんなで育てるという意識が必要である。</li> <li>○ 女性の一生のライフスタイルに合わせて、子どもを産む時期があり、社会に貢献する時期がある。女性として輝いて生きていく良い見本となる人を紹介していくことが非常に重要である。</li> <li>□ 昔とは子育て環境が違っており、家庭の養育力が欠けていると感じるが、それを地域で支援していく必要がある。子育て支援事業に参加する母親はよいが、参加しない母親が心配である。</li> <li>□ 0歳児から始まる、また、障害をもった子どもたちが成長していく過程での、一貫性をもった子育て支援が必要である。保育所、幼稚園、小学校でそれぞれ個別に行われているが、それらを一貫した形で結び付ける必要がある。</li> <li>□ 保育の質の担保をどうとっていくかを考える必要がある。子どもが生活する中で、どれだけの広さが必要かや、どういう人が関わるのかについて、最低の水準を示してほしい。</li> <li>□ 保育について、量の拡充も必要だが、第三者評価、自己評価、苦情などを踏まえ、質について考えることも必要である。</li> <li>□ 専業主婦が孤立しており、不慣れな母親が悩みを抱え込んで育ててしまうと子どもの成長にも影響が及ぶ。親が仕事をしていなくても、乳幼児が多様な教育を受けられるようにする必要がある。</li> <li>□ 放課後児童対策について、地域によっては公民館や児童館などで対応している状況があるが、学校の空き教室を活用すべきである。</li> <li>■ 身近で子育て支援施策を実施する市町村との連携を強くすることが必要である。</li> <li>■ 保育園が不足しているため、各保育園で20%増しで子どもを預かってもらっても良いことになっているが、同じ広さの部屋で預かっているため詰め込み過ぎとなり、事故が起こる可能性がある。</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>■ 一人の子どもが手術の必要のある病気になった時や、家庭で何か問題があった時に、もう一人の子どもの保育で大変困ることがある。宿泊保育、臨時保育のサービスを、もっと簡単に利用できるようにしてほしい。</p> <p>☆ 子どもたちは、保育所で過ごす時間が非常に長いので、良い資質の保育士たちに見てもらい、ハード面、ソフト面ともに整備された環境で見てもらふ必要がある。</p> <p>☆ 子どもの心の問題は、バックグラウンドとして、保護者、家庭の問題が非常に大きいので、病んでいる子どもの治療、相談、支援だけでは解決できず、子どもを取り巻く家庭に対してのフォロー、相談、支援が必要である。</p> <p>☆ 戦後つくられた保育所の最低基準について、まず、子どもの最善の利益に即しているかを考えるべきである。</p> <p>☆ 子育て支援のサービスに関して、市町村間の格差がとても大きく、また、担当者によって非常に温度差がある。熱い職員がいる市町村では、どんどん国、県、民間からお金を取ってきて画期的なことをやっているが、そういう職員に恵まれない市町村では、あれもやっていない、これもやっていないという状態になっている。</p> <p>☆ 各市町村の特徴ある子育て支援が、これからは望まれており、あそこの町に行くところこんな支援、あっちの町に行くところこんな支援が受けられるというふうに、県民がいろいろな市町村で自分のニーズに合った支援を受けることができればよい。</p> <p>☆ 地域のボランティアの担い手になっている人がだいぶ高齢化しており、愛育会の組織の強化が大変難しくなっているが、いい知恵があったら教えていただければありがたい。</p>	
<p>3 安心して暮らせる地域福祉の推進</p>	<p>○ 高齢者のグループホームなどの耐震化を積極的に進めて、避難所に行かなくても、その場所で持ちこたえられるようにする必要がある。</p> <p>● 家族に認知症の疑いがあった場合、気軽に相談できる場が少ない。もっと地域に密着して、簡単に掛けていって気軽に相談できるようなネットワークがあると安心である。</p> <p>● 認知症サポート医の養成と併せて、認知症に関する専門知識をもった看護師の養成・確保が必要である。</p> <p>● 車の免許証更新時に認知症に関連するテストをやるが、山梨県は免許の保有率が高いので、こことうまく連携していくと、認知症の初期の人の発見が可能になるのではないか。</p> <p>● 障害者の解雇が非常に多いが、障害者の自立にとって欠かすことのできない職業自立の問題について、支援してもらいたい。</p> <p>● 障害者の法定雇用率について、公が率先して模範となり目標を達成していくと、民間にも波及効果が出てくる。</p>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業は利益団体なので、障害者を受け入れようとするればそれなりに環境整備に経費がかかるので、施設整備や環境整備について県からの支援が必要である。</li> <li>● 障害の重度化、高度化、多様化が進む中、障害の特性が十分理解されないままに防災に関連した計画が進んでいるところが見受けられるが、障害の特性について関係者の理解が得られるよう周知を徹底してほしい。</li> <li>● ユニバーサルデザインの推進について、既設の道路に大変危険な箇所があるので、新設と平行して、改修、改善等を行う必要がある。</li> <li>● 障害児について、一般の学校の施設等でユニバーサルデザインを推進し、施設に入らずに地域社会の中で暮していくことができれば、大人になっても地域社会の中で自立して暮らしていきやすくなる。</li> <li>● 乳幼児を抱える人、妊産婦など、すべての人を対象にする支援相談体制を地域包括支援センターの中に設け、身近な地域の相談窓口とするとよいのではないか。</li> <li>□ 福祉施設の経営者は、労働条件や給与水準等の様々な要因により職員の確保に腐心しているが、職員が職務に適応できないケースや、個々の事業所の研修体制に問題があるケースも多いため、対応が必要である。</li> <li>□ 介護・福祉系の大学・専門学校を目指す学生が減少傾向にあるので、事業者に対して、養成訓練の必要性について、県、市町村、関係団体から、さらなる指導の徹底をしてほしい。</li> <li>□ 小学生の頃から、介護の場面を見たり体験したりする場があるということが、今後の高齢化社会において必要である。</li> <li>□ 介護をしている家族が、ヘルパー研修を受けたらとても役に立ったという声がある。その場面になる前の小さい頃からの支援があると良いのではないか。</li> <li>□ 高齢者が、農業や園芸などの製作活動に関わると、生きがいがづくりや健康づくりにつながるのではないか。</li> <li>□ ユニバーサルデザインの基本指針は既に策定されているので、計画にその旨の記述が必要である。具体的な取り組みとしては、歩道のフラット化しか見えてこないが、もっと様々な視点で見て、具体的な取り組みを掲げてもらいたい。</li> <li>□ 両親の離婚などで親と居られない子ども達も多くなっており、家庭という理想的な形ではない、こぼれ落ちていくような子ども達一人ひとりの命を保障していくことが大事である。</li> <li>□ 虐待があるなど、親から十分な保護を受けていない子どもが、どこへ相談したらいいか分からず困っているケースがあるが、そういう子どもが駆け込めるような場が必要である。</li> <li>□ 福祉計画などの策定過程において、社会的弱者である当事者が参加し、地域の人たちが主体的に話し合い、自分たちで方向を決めていくような仕組みづくりが必要である。</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>□ 乳幼児、妊産婦、独居老人などに、地域の人が手を差し伸べようとして訪れても、集合住宅、マンションの入口でシャットアウトされてしまうことがあるが、そういった場所に居る方々に手を差し伸べられるよう、何らかのセーフティネットをはる必要がある。</p> <p>□ 様々な行事などに出てくる人たちには、行政、福祉、地域のサービスが行き届くが、声を掛けても出て来られない、出て来ない人たちを、地域社会の共助の世界の一員にするシステムを構築してほしい。</p> <p>☆ 高齢者が、地域社会の中で日常の生活が確保される地域をつくってほしい。</p> <p>☆ 独居老人が非常に増え、買い物難民も出てきている。都市部においては、限界集落と同じような日常生活を送っている人がおり、地域住民の自治組織がもう限界状態である。</p> <p>☆ 介護保険の要介護認定の更新時に、いろいろな書類が役所から届くが、非常にわかりづらくて高齢者が一人では手続きができない。一人でも書き込めるようにしてくれると、自立できる。このような視点を持って、ユニバーサルデザインに取り組んでもらいたい。</p>	
<p>4 県民の豊かな生活を守る 保健医療の充実</p>	<p>○ 子どもを安心して産むことができることが基本であり、助産師外来の導入について期待している。</p> <p>○ 地域の病院を守るため、経営が厳しい公立病院の維持方策を考えることが必要である。</p> <p>● 医師不足の中、女性医師が働き続けられる職場環境づくりが必要であり、24時間保育所の整備など、離職防止対策の推進を図ることは喫緊の課題である。</p> <p>● 看護師の確保のためには、離職防止などの定着対策が必要である。現在働いている看護師が専門職としてのキャリアを重ねつつ働き続けられる労働環境の改善に一層力を入れる必要がある。</p> <p>● 看護師の確保に向け、保育所の整備や労働時間の適正化に取り組むとともに、働き続けられる職場づくりに向け、「多様な勤務形態」、「短時間正職員制度」の普及を行うことが必要である。</p> <p>□ 富士・東部小児救急医療センターの診療時間が午前零時までなので、中北との格差がなくなるよう、診療時間の延長について検討してほしい。</p> <p>■ 救急医療体制を充実することが大事である。あちらこちらに分散させるのではなく、交通の便も良くなっているため、甲府に集中させ、県立中央病院、山梨大学医学部附属病院の救急機能を、ドクターヘリの導入と平行して充実させたらよいと考える。</p> <p>■ 機能分担を進めていく時、その機能の間をつなぐ連携に力を入れないとうまくいかない。富士・東部地域には、急性期の病院はあるが回復期の病院が存在しないため、患者は回復期になると地域を出てしまう。こうした部分の連携がかなり重要になってくるので、ソフト面に力を入れてほしい。</p> <p>■ クリティカルパスは、専門職が持って歩くマニュアルみたいなものである。患者にとっての個別性という部分になると、パスだけでは難しいのではないかと考える。</p>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>■ 救急医療を行う内科、外科の医師に対する支援を充実させないと、救急医療は崩壊してしまうのではないかと危惧される。</p> <p>■ 小児科医を目指す女子学生の要請に応じ、出産・子育てを経験した母親との意見交換会を実施しているが、学生にとっては貴重な情報交換の場になっている。こうした、住民が活躍できる仕組みづくりという視点を、今後の施策づくりの参考にしてもらいたい。</p> <p>☆ 峡南地域での在宅医療のモデル地区化だが、こういうところでは医療だけあっても暮らせない。福祉と合体することによって在宅が可能になる。総合的に医療を担う人々が、医療と福祉を関連付けて取り組んでいけるとよい。</p> <p>☆ 小児救急医療センターが峡南地域にないことは、莫大な費用がかかることや、医療関係者が少ないこともあり、理解はできるが、迅速に運べる体制づくりについては考えてほしい。</p> <p>☆ 女医の数が増えていて、多くは都市部にいるが、山梨は、子育てに関して恵まれている自然環境なので、住居、保育に関する環境整備をすることで、現在子育て中の女医、今後子育てを考えている女医を呼んでくる、ということもできるのではないかと。</p>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<p>○ 子育て中の親のワーク・ライフ・バランスの推進を図ることが必要である。</p> <p>■ 少子化時代になり、親は子どもに高等教育を受けさせようとし、年を取るまで子どものために手を掛けることになる。一般的に子育て期に入る20代後半から40代後半の親の、生活と仕事のバランスをどのように保つかということが大事である。</p> <p>■ 同時期に、防災新館の建設、県立図書館の新設、甲府市役所の改築があり、どこもみんな情報プラザのような観光案内コーナーをつくらうとしているが、できれば情報の差別化が図られるよう、三者ですり合わせを行ってほしい。</p>	<p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p>

# (参 考)

## 総合計画審議会部会審議等における意見、提言の要旨

(平成21年 1月 第1回部会審議)

(平成21年 6月 第2回部会審議)

(平成21年10月 第3回部会審議)

(平成22年 1月 第4回部会審議)

(平成22年 5月 第5回部会審議)

( 基 盤 部 会 )

山梨県総合計画審議会

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>1 県土を形成する骨格道路網の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 物流の面からも、東西の高速道路だけではなくて、南北の高速道路というものがあると広域な活動ができるのではないかと感じている。</li> <li>○ 企業誘致は重要な課題であり、山梨では道路インフラ整備は必要である。</li> <li>○ 長い目で見れば道路整備は必要である。道路整備と山梨のビジョンとの関係を明示すべきである。</li> <li>○ 「見える化」という視点で、この道路の整備の意味を住民に知らしめる取り組みは、非常に分かりやすくいいと思う。「見える化」をすることにより、道路整備時の 渋滞が多くなっても、運転する人は少しは我慢できると思う。</li> <li>○ 県外には車で出掛けるが、身近な県のエリアが広がるということであれば、ビジネスマン的には非常にいいことだなと感じる。</li> <li>○ 住民が関心を持っているところは、現状をデータで示すということ。何を指してやっていくかということが示せば、大概の人は納得して協力してくれると思う。「見える化」により、最後に目指すものとの関係を住民に提示するのが、やはり一番大事。</li> <li>○ 県内の道路整備については、県民の理解を得て、自然を活かした中での整備をお願いしたい。</li> <li>○ 道路整備にあたっては、デメリットを最小化し、メリットを増やす取り組みが必要である。</li> <li>● 日常生活でよく利用する道路の渋滞について、いかに早くなくすかが大切である。</li> <li>● 山梨県にとっては、近隣都県との積極的な交流が大いにプラスになる。中央線の高速化や小仏トンネルの渋滞解消についても東京を中心とした関東隣県とのタイアップをしてもらいたい。</li> <li>● ドイツでは、自然を破壊してそこに道路を造った場合、破壊した面積と同じ量を別のところで自然に返す、というような取り組みがあることを聞いたことがある。同様なことを、山梨県でも考える時期に来ている</li> <li>■ 情報公開をできるだけ行い、県民に公共施設の保守というものは費用がかかるということを理解してもらえようようにしてほしい。</li> <li>■ 公共施設の保守に関して、事前型の予防的保全を行うことによって全体のコストが下がり、長持ちするということが大切である。</li> <li>■ 小仏トンネルの渋滞解消については、引き続き取り組んでもらいたい。</li> <li>☆ 中部横断自動車道、西関東道路等の基盤整備については、できるだけ予定どおりに完成させ、1日も早く産業・観光道路として供用開始できるように取り組んでいただきたい。</li> <li>☆ 渋滞が解消しないのであれば、渋滞があることを前提とし、いかに気持ちよく帰っていただくか考えてもよいのではないか。</li> </ul>	



政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>2 鉄道の利便性向上と地域航空の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝 9 時前に東京に入りたいと思っても、甲府からだの特急がなく、どうしても前泊となり、当然宿泊の経費がかかるハンデがあるので、何らかの検討や働きかけをしていただきたい。</li> <li>○ リニア中央新幹線の推進については、J R 東海をサポートして国土交通省に働きかけてほしい。</li> <li>○ リニア中央新幹線の 1 県 1 駅の整備に際しては、世界の人々が集まる駅として、富士山の麓にリニア中央新幹線の駅が出来ればと思う。</li> <li>○ リニア中央新幹線については、J R 東海に対し企業利益のメリットを提示する必要がある。</li> <li>○ 道路にレールを敷いて、レールのあるところは電車みたいな形の運搬ができ、レールがないところはタイヤで自動車のように走るような乗り物があるようなことを以前見たが、今後の公共交通機関の整備として検討をしていただきたい。</li> <li>● リニア中央新幹線が山梨に来るのは大変重要である。富士北麓国際交流ゾーン構想のことも考えると、リニア中央新幹線は、富士山が見える富士北麓を通ることが大切である。</li> <li>□ リニア中央新幹線と羽田のハブ空港との関係は大切だと思うので、国の動きを注視してもらいたい。</li> <li>■ リニアは、どういうふうを活用していくか、県だけではなく、地元の人達の意見も聞きながら可能性について知恵を絞り、山梨の発展について検討してもらうことが必要。</li> <li>■ リニアの必要性については、県民全体の問題としてプラスとマイナス両方あると思うが、今後、県民の理解と認識と関心を高めることが大切である。</li> <li>■ リニアの駅が閑散とした新幹線の駅のようになるのではなく、駅に対しては新しい感覚で、今までの駅とは違う発想のものをつくる必要がある。(アクセスについても、観光やビジネスに幅広く利活用できることが必要である。)</li> <li>■ マウント富士を通過する駅が、一番県土づくりには映えていくのではないかと思う。</li> <li>■ どのようにリニアを使っていくかという県土づくりの在り方について検討を進めてもらいたい。</li> <li>■ リニアについて、地域の意見を吸収するところまで意識が醸成されていないので、もう一度、組織づくりを検討してもらいたい。</li> <li>■ リニアについての県民への啓発活動について、今のやり方だけでは、まだ十分ではなく、更に具体策を持って取り組んでいかなければならない。</li> <li>■ 私ども全員がリニアをどうやって活用するのかとか、どうやったら山梨県にとってリニアが役に立つのかということ、専門家だけに任せず、我が事としてみんなが考えていくような機会づくり、そういうものも取り組みの方向性の中で大事な要素だと思う。</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ リニアについて、言葉だけの推進、啓発ではなく、具体的にどうやって実施していくのかということが、これから先の段階として求められていると思う。更に踏み込んで、より有効な具体策の提示について、検討してもらいたい。</li> <li>■ 道路整備だけでなく、以前に提案したようなライトレールなどの路面電車による交通機関をもう少し考えてほしいと思う。</li> <li>■ リニアが通れば、山梨がどう変わるんだ、どう変えるのかという議論をしてほしい。</li> <li>☆ 高齢化が進むにつれて、県民の移動手段を車だけに頼ってよいのか、道路だけを造ることが果たしてよいのか疑問を持っており、公共交通機関の整備についてももう少し検討する必要がある。</li> <li>☆ リニア新幹線は、山梨県を通過することが決まっているのならば、もっと情報を公開して、県民の意見が広く反映されるような方法を取っていただきたい。</li> <li>☆ リニアが開通することにより、県民がどのようなメリットを享受できるのか、わかりやすく情報を公開するとともに、県民の意見をくみ上げていただきたい。</li> <li>☆ リニアも山梨の観光資源である富士山を取り入れた計画として進めていったらどうか。</li> </ul>	
3 情報ネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「むすぶ・やまなし」は大変重要だと思うが、道路やリニア等、交通基盤に偏りすぎていると思う。情報の面にも目を向けた施策検討が必要である。例えば、横須賀に通信の研究拠点があるが、山梨と横須賀をネットワークを結んで海外に情報発信したり、海外から山梨に情報を流せるような実験ができないか。</li> <li>☆ マスコミ以外のところで情報発信ができるような方策を山梨県知事も検討してみてはどうかと思う。</li> </ul>	
4 多様な分野における国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国からの観光客が多くなってきているので、公共看板についても、外国からの観光客向けに多言語対応の表示をした整備が必要である。</li> <li>● 国際交流が出ていたが、いかにして外国から観光客を誘客して県を豊かにするかというような一方的な考えではなく、相手の国の立場になった対応をすることが必要だと思う。</li> <li>● 富士北麓国際交流ゾーン構想においても、情報通信業協会と一緒に取り組むところがあると思う。</li> </ul>	

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
<p>他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 山梨県は、今後どうやって外貨を獲得し、90万人の人口を養っていくかということもある。</li> <li>○ 弱者がより弱者にならないための道路整備、車中心から人中心へ、人と車が共生する道路空間としていただきたい。</li> <li>○ 山梨には、なるべく自然を残したいので、道路を広げるだけという観点ではなく、ほかの観点で便利さと環境を融合させるようなことができたらと思う。</li> <li>○ 道路建設については、よく考えて自然を壊さないようにしていただきたい。富士 山が日本一、日照時間が日本一、ブドウが日本一と、日本一がこんなにいっぱいあるので、そういう資源をもっと大事にした山梨県づくりができたらと思う。</li> <li>○ 市街地の渋滞、特に朝と夕方が非常に渋滞が多く感じている。県の方で、できれば各企業とかに、出勤する時間帯をずらすような取り組みを進めていただけるようにしていただきたい。</li> <li>● 太陽光や燃料電池を含めて、将来の山梨の産業構造の長期的なビジョンを持って県民を引っばっていくことが必要である。</li> <li>● 山梨は観光とか産業など県外から観光客や産業を呼び込んで、山梨県の外からお金が流入する仕組みを考えつつ、暮らしやすさや自然を守っていくなど、相反する両方を達成していかなければならないと思う。</li> <li>● 県民意識調査は、全国ベースで各県が行っているのか。山梨県民の意識は、どこに特徴があるのかが分かるとも少し狙いを定めた施策が立てられると思う。</li> <li>● 計画された事業については大至急、徹底的に実施して、県民が利益を早く享受できることが大切である。</li> <li>● 事業実施に際しては、県の各部局が横断的に取り組み、優先順位を決めて、スピードを上げて取り組んで欲しい。</li> <li>● ミネラルウォーターが山梨県にとって、企業誘致の面でもPRになりうるので活用すべきである。</li> <li>● リニアに乗って山梨に環境の勉強に来てもらい、そこで着地型観光をしてもらう等、観光と開発とを結び提携させることが必要だと思う。</li> <li>□ 行動計画を実施していくに際しては、これまでの検証を踏まえて、優先順位をつけて県民に見えるようにしてもらいたい。</li> <li>□ 県でも行動計画を実施するに際しては、関係団体を集めて意見聴取を実施してほしい。</li> <li>□ いろいろな企業が農業に参入しているが、県としても企業の農業への参入について促進してほしい。</li> <li>□ ブランドの確立と販路拡大に、農畜産物の加工品について、一言触れてもらいたい。</li> </ul>	<p>産業部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p> <p>環境部会へ</p> <p>環境部会へ</p> <p>環境部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p>

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>□ 経済・雇用対策については、今までやっている事業だと思うが、緊急度を持って推し進めてほしい。特に、金融機関と連携した資金管理は重要と考える。</p> <p>□ 地域や業種を超えて官と民の連携した取り組みが出来れば山梨がもっと活性化すると考える。</p> <p>□ 製造業にも目を向けてもらい、国際交流や展示会などに際しては仲間に入れてもらいたい。</p> <p>□ 危機管理については県としてもハードだけではなく、地域の情報伝達についても配慮し、指導してほしい。</p> <p>□ 災害が来たときに避難所がないのは問題である。学校や公民館は高台にあるわけではないので、今後、避難所の設置を考えてもらいたい。</p> <p>□ 太陽光発電について、設置する家庭に補助金を出し、反面、設置をしない家庭には電気料を少し負担してもらおうと聞いているが、そのことは少し考えてほしい。</p> <p>□ 他県にはない、山梨県ならではの生き方について、盛り込んでほしい。</p> <p>■ 学生を対象としたビジネスモデル提案のコンテストが開かれているが、リニアの開通にあわせて意識を高めていくために全県でコンテストを開くことも一つのやり方である。</p> <p>■ リニアに関して、山梨にせっかく駅ができるということを将来の若者達に受け継げるような施策をすることが大事である。</p> <p>■ リニアの開通や広域道路網の整備とCO2削減という部分を、どうプラスに結びつけられるか、これからの計画の中でCO2削減等の部分を着眼点としていってほしい。</p> <p>■ 山梨県は観光に関してリニアをうまく活かした形でやってもらいたい。</p> <p>■ 富士山に見える場所に駅をつくって、そこで観光客を降ろすことが良いと思うが、駅から降りた観光客は足がないので、他県のモデルとなるような違ったアイデアを出さないといけないと思う。</p> <p>■ 高齢者の異動の足がなくなると引きこもりのお年寄りが増えていくということで、高齢者の社会になっていくことをもう少し考え、高齢者が歩きやすいまちづくりに目を向けてほしい。</p> <p>☆ 観光立国へという国全体の流れの中で、山梨にとっても観光が大変重要となってくる。そのため、中国語や韓国語等、小中高校生への教育について検討していただきたい。</p> <p>☆ 観光事業者等への研修会だけでなく、一般の方と外国人観光客とが交流できる場があるとお互いの文化を理解し、更にリピーターが増えると思う。</p> <p>☆ リニアの開通に関連し、災害時の時の対応やドクターヘリなどとの連携を兼ねた救急医療等、安心安全な暮らしができるというところも暮らしやすさ日本一につながると思う。</p>	<p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p> <p>環境部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>環境部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p> <p>産業部会・教育文化部会へ</p> <p>産業部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p>

政 策	意 見 、 提 言 要 旨	備 考
	<p>☆ リニアの駅周辺が活性化するにつれ、過疎地が増えないような計画も県に対応していただきたい。</p> <p>☆ 自殺者は県民より県外の方が多いため、県外において自殺防止の広報活動、啓発活動に取り組んで欲しい。</p> <p>☆ 健康長寿日本一を目指して、実施計画を考えていただきたい。</p> <p>☆ 東京の調査機関の調査によると医療食品関係で山梨県に興味を抱く企業が多いことから、医療食品関係企業に力を入れた企業誘致を行っていただきたい。</p>	<p>安心安全部会へ</p> <p>安心安全部会へ</p> <p>産業部会へ</p>